

宜野湾高校の生徒達へ（49）

2020.10.13

F N S 歌謡祭(8/26)を見た。宜野湾高校ダンス部の映像が流れると聞いたからだ。沢山のアーティストが最高のパフォーマンスを披露しており、歌の持つ力を再認識した。その中で、今の皆さんに届けたい楽曲は何かと悩んだ末、2曲に絞られた。その一つが Official 髭男dismの「Laughter」。私が印象に残った箇所は、

翼は動きますか？ 本当に飛べますか？
YesもNoも言わずに真っ直ぐに空を見てた
鳥の名前はラフター ケージを壊した
YesもNoでもなくて
飛びたいとはしゃいでいる声だけで
膝を抱えた昨日までの自分を
乗り越えたラフター 今日も歌い続けた
自分自身に勝利を告げるための歌



この歌について、藤原さんは

上京する前のことを書いたわけですよ。音楽で飯食ってくという選択はさ、親とか周りの友達からすれば.....「大丈夫か」と聞かれれば、「大丈夫」に見える職種じゃないよね。

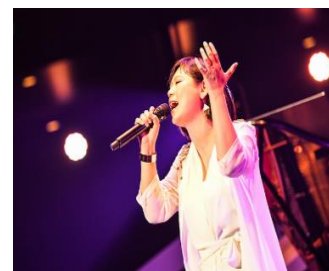
タイトル名については、

『Laughter』って、笑い声って言う意味じゃん。みんなが心の底から笑えることを、人生の真ん中に持ってこれるように生きてってほしいなってすごく思ったわけ。

髭男は、鳥取から上京し、音楽で勝負しようと思ったわけだから、自分たちの音楽が認められるのか等の不安で渦巻いていたことだろう。皆さんも自分のやりたいことがあるけれど、なかなか決心できないもどかしさがあるかもしれない。「翼は動きますか？ 本当に飛べますか？」は、私たちに決断を求めているようにも受け取れる。

もう一曲は、『I believe』（絢香）。私が印象に残った箇所は、

この胸の中に隠れている不安のうず
目の前にある自分の選ぶべき道はどれか
人に流されていた日々 そんな自分に「さよなら」
I believe myself
信じることで 全てが始まる気がするの
I believe myself あたたかい光は
まちがっちゃいない 歩いて行こう
I believe



2曲とも人生の、特に若者への応援歌だ。以前にも取り上げた樺坂 46 の楽曲にしても、迷いがある中で自分の生きる道を求める者へ力を与える。『宜野湾高校の生徒達へ（3）』で私の大学浪人時代の文章を紹介したが、私もその時、「自分の生きる道」を探していた。

当時、「この先、自分はようになっていくのだろうか？」という不安で苦しかったことを、今でも鮮明に覚えている。そんな時に聴いた曲は何だったろうか？

皆さんのお気に入りの楽曲は何だろう？

沖縄県立宜野湾高等学校長 津留一郎